

世界へ松濤中生 (Achieve a role in the global community)

自立 (Grow) 尊重 (Respect) 創造 (Create)

学校だより

■HP、Address

shoto jhs02@shibuya-school.ed.jp

■発行
渋谷区立松濤中学校
渋谷区松濤1-20-4
■代表電話
TEL 03-3469-2451、2452
■発行責任者
校長 斉藤 茂好

NO. 6

12/15

平成29年度



パラアート作品発表

今月の内容

【1面】

■PHOTO SKETCH

パラアート

■校長メッセージ

・論理的に考える

・お金持ちは

【2面】

がんばれ3年

論理的に考える

過日の全校朝礼で触れた話。

「世界の中でコミュニケーションをとる上で一番汎用性が高い英語を学ぶことで、私達が普段使っている日本語がどんな言語なのかを知るきっかけになります。英語を学ぶことで母国語である日本語を客観視できます。例えば、英語では主語の後に動詞がくるとか、一人称と三人称では動詞が変化するとか、否定を最初にもってくるんだ等を知るわけです。

人間は誰しも、物事を論理的に考える時、慣れ親しんだ母国語で物事を考えます。この「論理的」に考える力がとても大事です。そういう意味で、もっともっと読む力とか書く力を日本語を使って、しっかり意見表明できるシーンを設けていく必要があります。よく日本では、中学校、高校あるいは大学まで勉強しているのに、全然、英語が話せないと言う人がいます。それは英語がしゃべれないのではなく、英語でしゃべるべき内容をもっていないからだと思います。英語力がないのではなく、そこで語るべきものをもっていないだけです。日本語を論理的に操る力があって初めて、物事を論理的に考えたり、他の言語を使う人と対等に議論していく力が身に付いてきます。日本の中学校では、その身に付つける教科の内容の網羅性と基礎的水準の高さは世界一と言っても過言ではありません。英語に限らず他のどの教科であっても、内容を完全にマスターしてさえいれば、社会生活に不自由を来すことはありません。」

お金持ちは

「お金持ちは、実はお金を貯めようとして節約などはしておらず、使い切れないから自然に貯まってくだけなのです。それはなぜかという、収入が多いからという以前に、出費の考え方に違いがあります。彼らは、必要なものには大胆にお金を払う一方、自分が価値を認めないものには1円たりとも使いません。そのため、収入が増えたからといってはしゃいで生活レベルを上げるといったことはしないのです。」

かつては勢いのよかった日本社会が、どこかうらぶれてきたように感じるのは、無駄遣いをしてきたということになりそうです。また、しなくてはならなかったことをおろそかにしてきたという

ことも言えそうです。お金という世界に限らず、人の生き方や暮らし方にも価値に沿った厳しい処し方が必要になります。

暮らしの便利さという価値を考えると、必要な便利さと必要ではない便利さを選ぶことができるかということが問われます。単純に便利さ一辺倒に依存していると、生物的な価値を失うことは明らかです。エスカレーターの利用が足腰の弱体化につながるといったことです。情報を受け取って受け売りばかりにかまけていると、思考力が萎えてしまうこともあります。

ほんの偶然ですが、「ラテマネー」という言葉が目に入りました。家計術という囲み記事のタイトルです。知らない言葉でしたので、ちょっと記事をのぞいてみました。

「ラテマネー」とは米国の資産アドバイザーが書いた書籍「自動的に大金持ちになる方法」に出てくる言葉で、コーヒーショップで牛乳たっぷりの「カフェラテ」を買うような「日常何気なく使っている小さな出費」という意味で使われているそうです。缶コーヒーを買う100～200円程度のお金をイメージすると分かりやすいとのこと。旅行や電化製品の購入など、大きなお金を使うときは、そのお金をどう工面するか意識しますが、日常の小さな出費は気にせずに使っているのが無駄遣いであり、お金が貯まらない原因というお話でした。

昔、貯金を奨励するために、「塵も積もれば山となる」というスローガンがありました。小学校で貯金をさせられたものですが、小銭を貯めるといつの間にか大金になるという教えでした。その逆バージョンです。やはり今は恵まれているのでしょうか。無駄遣いをしないということは、そこそこの入金が保証されているということです。昔は、無駄遣いをしようにも元になるお金がないのですから。

がんばれ3年



毎春、美しく咲き誇る桜の花は、花を散らせた後の夏の頃から、すでに来年の花を咲かせるための準備を始めます。花芽という花の元となる芽を夏のうちに生成し、ある程度大きくなると成長を止め休眠状態に入ります。この先の厳しい冬の寒さをこの花芽の状態で乗り越えるためです。休眠状態の花芽は寒い冬を経て、気温が上昇し始めたのを感じて眠りから目を覚まします。

眠りから目を覚ました花芽はドンドン成長し、そしてつぼみとなり、やがてあの美しい桜の花を咲かせていきます。つまり、花芽を目覚めさせるには、一定期間の冬の寒さが必要です。一定期間冬の寒さにさらされなければ、桜の花は美しく咲かないということです。

受験生である3年生にも、同じ事が言えるのではないかと思います。自分の目指す志望校合格を手にするためには、これからの厳しい冬の寒さや辛いこと、苦しいことに耐え、内なる花芽を呼び覚ませる時期がまさに今から3ヶ月です。

「サクラ サク」を目指し、3年生みんなに15の春を!!



冬季休業まで10日余り。生徒、保護者、地域の皆様には、期間中遅やかに過ごされますようお願いいたします。

今年一年の本校へのご理解ご協力に感謝申し上げ、少々早いようではありますが、よいお年をお迎えください。